



明石支部  
No. 259  
2012・10・25  
投稿歓迎!

兵庫県保険医協会明石支部  
支部長 吉岡 巖  
神戸市中央区海岸通一丁目二番三十一号  
神戸フコク生命海岸通ビル五階  
TEL 078-3393118(代)  
FAX 078-3393118(代)

明石支部第29回総会・記念企画  
映画『一枚のはがき』上映会&ミニ講演会『おいしく噛んで心も体も元気に』

# 反戦の思いあらたに

明石支部は9月15日、第29回支部総会を開催。こども病院の移転反対を掲げ、活動することや医院経営に役立つ催しを積極的に開催することを決定した。

市民公開記念企画としてアスピア明石の子午線ホールで行った「映画『一枚のはがき』上映会&ミニ講演会『おいしく噛んで心も体も元気に』」には会場満員となる300人の市民が詰めかけた。

総会に先だって挨拶した吉岡巖支部長は支部が取り組んでいる「県立子ども病院のポートアイランド移転反対」署名への協力を訴え、その場で80筆以上の協力を得た。

映画「一枚のはがき」は撮影当時98歳という日本最高齢監督の新藤兼人が、自らの実体験をもとに引退作として製作した戦争ドラマ。参加した櫻林歯科スタッフの感想文を紹介する。



定員300人のホールが満員に

## 戦争の愚かさ忘れない

新藤兼人さんは、1912年広島県生まれ。1944年、32歳の時に召集され、呉海兵団2等水兵として入隊し、宝塚海軍航空隊で終戦を迎えた。100人のうち、自分自身ではなく上官に引かれるくじ引きに「当たらない」ことによって生き残るということを経験した6人のうちの1人だった。生き残ったことで、大きな課題を背負い、考え続けた人生だったと想像する。

この映画は戦地に出兵する戦友に託された妻宛のハガキを届ける一兵士の物語だった。戦争があった時代に生きた人々は、理不尽なことにも文句ひとつ言わず、お国のためにと戦争に借り出され命を落としたり負傷したり、そして一家の主の支えを失った家族は不自由を強いられた。戦争はなんて残酷なんだろうとあらためて感じずにはいられない。

## いま生かされている自分を想う

以前、朝の芸能ニュースで新藤兼人監督のト報とともに最後の作品と一緒に作った面々と見送る大竹しのぶを偶然見ていた。「映画人生最後の作品」とはどのような映画なのか：興味を持って観た。ハガキの送り主である友子(大竹しのぶ)は、実家の貧しさも、今は両親も亡くなり身寄りがいない身の上も、徴兵に優しかった夫を取られその夫のくじ運が悪く海に沈んで帰らぬ人となった事も、また再婚させられた義弟が徴兵され戦死してしまった事も、その後追うように義父母が亡くなってしまった事も…まで

生き残ったことに罪悪感を感じたり、現実逃避したくなる者。戦争に家族と生活を奪われ、絶望感でいっぱいになる。生きる気力もなくなった人同士が、どん底をみてそれでも助け合ってまた立ち上がったって生きていこうとする強さを見せることで、現代の私たちに考えさせるべく、「生きる」とか「いのち」の尊さを投げかけたのではないかと思う。

年々、いろんな場面で戦争があったことが大きく取り上げられなくなったと感じる。戦後約60年もあとに生まれた私でも、子供の頃は伝え聞いた戦争の恐ろしさを夢にまでみるのがあった。家の近くには防空壕があったし、戦争を知らない世代でありながらも漠然と空襲があったことを身近に想像できた。夏休み、学校の召集日には必ずそろって戦争映画を鑑賞し、戦争の恐ろしさを教育された。

終戦記念日には一日中、テレビの運命だと受け止め、何も言わずに寂しさにも貧しさにも耐えて生きている姿はさまざまに凄かった。心の強さを感じた。

でも囲炉裏で燃える夫の英霊を目にしたシーンでは、今まで抑えてきた感情が噴出した勢いで焼身自殺してしまうのではないかと思ひハラハラした。

戦争の時代に生きた人たちにしあわせはあったのか、人間の強さと弱さが入れ交り、死んで虚しく、生きていて地獄のようだった。

くじ運が良く生きて帰って来られた復員兵も決してしあわせではなかった。しかしこの一枚のハガキを預かっていただけを偶然思い出した友子を訪

じは追悼記念式典を放映していて、それだけ事の重大さを感じさせていた。最近はそのようなことも少なくなり、戦争の記憶が薄らいできているように思う。今の世の中は豊かになり過ぎて、いじめや殺人が軽々しく行われている。戦争で無念にも犠牲になった人のことを思えば、そんなことはできないはずなのに。せめて、一年に一回、毎年8月くらいは日本国民である私たちは戦争のことを真剣に考えてもいいのではないかと思う。

戦争を知らない私たちの世代は、この事実にはしっかりと耳を傾け、次の世代に語り継がなければいけないと思う。これまでの歴史を振り返り、これから考えることが大切だと思う。今でも、世界中のどこかで戦争が行われている悲しい現実がある。戦争の愚かさを忘れてしまった時、また同じことが繰り返されるのだろうか。

【歯科衛生士・松尾 容子】

ね、お互いの戦争が生んだ苦勞をぶつけ合えども答えは出さず、新天地ブラジルへの夢はやはり心の弱さだったのか。それでも生きようとする強い気持ちがあったからこそ友子と共に妻を失うことを思いつき、結果ふたりで共に希望を見いだすことが出来て本当によかったと思う。

観終わって、反戦映画でありながら淡々と起こる不幸とその背景の滑稽さが端的でわかりやすく表現されており、反って今の世のしあわせを実感させてくれたのは新藤マジックだったのだろうか。改めて戦争とは、命とは…いま生かされている自分を想う時間となった。

【歯科衛生士・谷川あかね】

12月8日(土)18時30分、第2回クリスマスパーティー開催決定！特別ゲストはプロマジシャン「」

第28回支部総会 記念講演詳録⑥

兵庫県保険医協会明石支部 第4回バスツアーのご案内

お気軽にご参加下さい!

紅葉の名所「光明寺」もみじトンネル鑑賞と伏見散策～宇治「三星園」抹茶石臼挽き体験

11月25日(日)

<主な行程>集合:8時50分 JR明石駅改札前 9:00 明石出発 = 阪神高速北神戸線・中国道・名神高速 = 大山崎IC = 11:00~12:15 長岡京「光明寺」庭園や総門への紅葉トンネルなどゆっくり鑑賞。12:30~ 伏見自由散策



「月桂冠大倉記念館」酒蔵見学、「寺田屋」など。13:30~14:30 ご昼食 「京の台所 月の蔵人」15:00~16:00 宇治「三星園上林三入本店」で抹茶石臼挽き体験 1kg50,000円の高級宇治茶を石臼で挽き、茶菓子と一緒に味わっていただきます。18:30 明石帰着予定



参加費: 大人8,500円・小学生4,500円

定員: 26人 (申込順。定員になり次第締切)

[昼食代・光明寺拝観料・抹茶挽き体験料等込]

協会明石支部は、第4回目の日帰りバスツアーを開催します。今回は、紅葉の時期にと秋の京都に設定しました。紅葉狩りは、長岡京「光明寺」。源平の戦いで有名な熊谷次郎直実が1198年に建立した由緒あるお寺です。もみじ参道が美しいということでJR東海のポスターにも使われたことがあるそうです。伏見では、「月桂冠大倉記念館」や「寺田屋」など自由に散策いただき、ご昼食は、趣きのある巨大な酒蔵を改装した「京の台所 月の蔵人」で手作り豆腐などお召し上がりいただきます。宇治では、将軍家御用御茶師という歴史と伝統の老舗「三星園上林三入本店」で抹茶石臼挽き体験も予定しています。先生はじめご家族・職員のみなさまの親睦、福利厚生に、ぜひお気軽にご参加下さい。お待ちしております。【谷 順】

参加希望の方は、11月15日までに、FAXまたはお電話でお申し込み下さい。

お問い合わせは、協会明石支部担当事務局(TEL078-393-1807) 平田・本田までどうぞ。

協会明石支部主催 11/25 バスツアー 参加申込書 (返信FAX: 078-393-1802)

地区 ( ) 市区町 ( ) 医療機関名 ( ) 電話 ( ) FAX ( )

◇ 大人 ( ) 人、小学生 ( ) 人申し込みます。

残席わずか!

原発を知る・被ばくを知る

京都府保険医協会 飯田 哲夫 先生

第28回支部総会での記念企画「原発を知る・被ばくを知る」の講演録に加筆したものをシリーズ掲載。

【プルサーマル】 福島でなにが起こったのか? 具体的な事故報道は、テレビや新聞で皆さん良くご存じだと思えますし、一般報道に現れない事故の実態は、今後様々な関係者によって解明される事を期待するしかありません。ここでは気になった事を2つだけお話ししようと思えます。

【事故原因の真相】

もう1つこれは大切なこととです。皆さん恐らくはこう思っておられると思う。大地震が起こった。だけれども自動停止装置、つまり制御棒がちゃんと働いて、ウラン反応をきちんと止めた。だから、事故の対処は止める、冷やす、閉じ込めるとしていいけれども、ちゃんと止まった。地震には耐えた。だけれども、千年に一度という大津波がきたために、電源全てを失って、そのために冷却できなくなると、炉心溶融から原子炉に穴が開いてしまつて、大事故になった。ほとんど

これが定説になつている。しかし我々はそう思いこまされていくのではないかと、この疑問があります。東電は、事故が起こる前から4、5時間後くらいまでの間のデータ、いろいろな運転データというのは記録されているのか、されていないのか公表していません。それでも事故後1カ月くらい経つと、ある種の運転データとか、メモとか、いろいろなものを公表し始めました。原子力科学者・技術者が、そのデータを読みました。私が読んだのは日立で原子炉を設計した技術者のレポートですが、その結論はこうです。①地震発生「直後に」なのがしかの原子炉系配管で、小規模ないし中規模の冷却材喪失事故が起きた可能性が極めて高い。今回の事故の本質は、冷却材喪失です。この技術者は、いやいや津波じゃないよ、地震で起きたんだよといっているわけです。②そして圧力制御室の一番下のところに、お椀みたいな部分がありまして、その一部が地震発生「直後に」破損したか、あるいはスロッシングのために、機能不全になった。スロッシングというのは、例えば石油タンクが地震に遭います、その時、中に入っている石油が激しく揺れて、そのために石油があふれ出したとか、タンクがいかに揺れたかなどをスロッシングといいますが、こういう現象が起こったんじゃないか。要は圧力調整がちゃんと働かなかった。③それから圧力制御室の外で、水素爆発が起こった。ジルコニウムがあるのは、原子炉の压力容器の中ですから、地震「直後に」压力容器と外界とつながってしまった。これは東電は絶対に認めないと思う。なぜならこれを認めたら、津波対策ではないと、地震対策でないのだめって、地震対策を認めることになる。